



子どもたちの世紀

2011年10月1日

公益財団法人 小児医学研究振興財団

研究助成金／海外留学フェローシップ／優秀論文アワード 23年度 募集要項 決定!!

4面をご覧ください。



イーライリリー 海外留学フェローシップ

募集要項

フェローシップの概要

- 1件180万円以内 総額360万円
- 対象研究: 発達障害に関する基礎的および臨床的研究
- 海外の施設において対象領域の研究に一定期間(原則6ヶ月以内)従事できる者に対して旅費などを援助する。
- 選考は当財団の選考委員会が行う。

応募資格

原則として決定後1年以内に出国し、欧米の専門施設で発達障害に関する研究や研修を行い、以下の条件を満たす者

- 1 わが国の大学、医療機関、研究機関に所属する小児科医師および小児医療研究者
- 2 具体的な研究または研修の計画を提示できること
- 3 平成23年12月31日時点で40歳未満の者
なお、応募は1施設から1名とする

※発達障害の定義: 精神遅滞、学習障害、運動能力障害、コミュニケーション障害、広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害など

応募方法

当財団の定める応募申請書(財団URLよりダウンロード)に必要な事項を記入し、下記あて送付すること。

締切: 平成23年12月21日(水) 必着

選考結果および報告書提出

- 1 平成24年3月上旬に当財団ホームページ上で発表のうえ、平成24年第115回日本小児科学会学術集会にて表彰する。
- 2 受賞者は、海外での研究・研修終了後6ヶ月以内に報告書を提出し、日本小児科学会雑誌に掲載するものとする。

応募先(問い合わせ先)

公益財団法人 小児医学研究振興財団
〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
Tel: 03-5818-2601 Fax: 03-5818-2602
E-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp
http://www.jfpedres.or.jp/

研究助成金

募集要項

助成対象研究課題

- 1 新しい感染症や急性疾患の診断・治療に関する研究
- 2 小児の難治疾患、慢性疾患の本態解明と治療に関する研究
- 3 生活習慣病の予防に関する研究
- 4 遺伝子治療など高度先進的医療の開発のための基礎的研究
- 5 いじめ、虐待、拒食、不登校など子どもの心のケアや心身症に関する研究
- 6 生命倫理など社会的問題に関する研究
- 7 国際医療協力の基盤となる母子保健に関する研究
- 8 その他、子どもの健康に関する研究

応募資格

- 1 小児科の基礎的研究、臨床研究等に従事し、日本国籍を有する医師・研究者(平成23年12月31日時点で満50歳未満)
- 2 助成対象研究課題をテーマとする研究会、シンポジウムの開催者
- 3 上記1,2の他に当財団が必要と認めた者

研究助成金

1件 200万円以内

応募方法

当財団の定める交付申請書(財団URLよりダウンロード)に必要な事項を記入し、下記あて送付すること。

締切: 平成23年12月5日(月) 必着

交付申請書の送付先及び照会先

公益財団法人 小児医学研究振興財団 事務局
〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
Tel: 03-5818-2601 Fax: 03-5818-2602
E-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp
http://www.jfpedres.or.jp

優秀論文アワード

選考要項

アワードの概要

- 1 下記機関誌に掲載された、優れた研究論文を表彰する。
- 2 選考は各機関誌を発行する学会から優秀論文として推薦を受け、当財団の選考委員会が行い、1件30万、総計4件120万円を筆頭筆者へ授与する。
- 3 平成23年12月31日時点で40歳未満の執筆者を対象とする。

選考対象誌(平成23年1~12月発行)

- 1 日本小児科学会機関誌
「日本小児科学会雑誌」、「Pediatrics International」から各1編
- 2-1 日本小児神経学会機関誌「脳と発達」、「B & D」から1編
- 2-2 日本小児精神神経学会機関誌: 「小児の精神と神経」または日本小児心身医学会機関誌: 「子どもの心とからだ」から1編
※ 2-1、2-2の優秀論文はイーライリリーアワードとして表彰する。

選考結果

平成24年3月上旬に当財団ホームページ上で発表のうえ、平成24年第115回日本小児科学会学術集会にて表彰する。

「子どもたちの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

事務局より

すでにお知らせ致しましたように、当財団は3月29日内閣府より公益財団法人への移行認定を受け、4月1日移行登記を終えることが出来ました。今までのご支援、ご指導に改めて深くお礼申し上げます。当面、海外留学フェローシップ、研究助成金交付、優秀論文アワードの3事業を強化、発展させたいと思います。当財団の財政的基盤を強化するため、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。(松尾宣武)

事務局

公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602 e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

ホームページ

http://www.jfpedres.or.jp/

留学体験記

海外に行って日本に最適化した 子どもの心の診療システムを考える



東京少年鑑別所 医師
塩川 宏郷

私は2004年10月～11月の2か月間、イーライ・リリーのフェローシップ(精神)の支援をいただき、カナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア小児病院(British Columbia Children's Hospital, BCCH)の児童精神科、特に摂食障害治療ユニットで研修を受けた。

摂食障害ユニットは常時10人ほどの摂食障害の女児(10歳～18歳)が文字通り寝食を共にして生活している。摂食障害ユニットにおける治療の詳細については「子どもの心とからだ14(2):139～147,2005」を参照されたい。

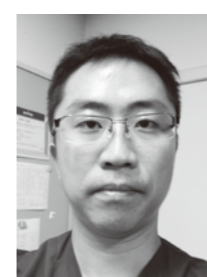
当時子どもの心の診療科の新しい病棟立ち上げにかかわっていたこともあり、カナダの児童精神科治療システムについても教授していただいた。何を始めるにしてもゼロからのわれわれとしては、諸外国で蓄積されたノウハウを学ぶことは非常に重要である。その一方で、やはりその国の診療システムはその国に最適化したものであるべきだということを実感した。家庭医・二次医療機関・三次医療機関の役割分担がしっかりなされ、医療費は自己負担なしというかの国の診療システムは日本のそれとは大きく異なっており、子どもの心の診療についても同様であった。日本でも各地に小児(児童)精神科の病棟がオープンし、黎明期であった子どもの心の診療もこの数年で定着してきた感があるが、スタッフ教育や治療プログラムの開発など課題も多い。今後もこのフェローシップを利用し、多くの小児科医が海外での研修から日本における医療システムを見渡すという体験を積んでほしいと願う。

最後にこの海外研修でお世話になった方々に心より感謝申し上げます。



摂食障害ユニットの治療チームと。後列左から2人目が小児科医 Jorge Pinson教授、3人目が筆者(当時は長髪だった)

重症心不全に対する トランスレーショナル・リサーチ in London



大阪大学大学院医学系研究科
特任助教
高橋 邦彦

私は2007年にイーライリリー海外留学フェローシップを受け、約3年間イギリスはロンドンに留学してきました。留学先はロンドン大学Queen Mary校内に設立されたWHRI(ウィリアムハーヴェイ研究所)で、Translational Cardiovascular Therapeutics部に所属しました。もともと併設するBarts and The London病院で心疾患に対する英国最大規模の細胞移植療法臨床試験が進められていたのですが、基礎的側面からのバックアップという重要な使命を担うため、Dr. Ken Suzuki(現prof.)が抜擢され2007年4月に同講座が新設されました。研究テーマは「重症心不全に対する細胞治療の治療効果に関するメカニズムの解明とより安全でより効果的な新しい治療戦略の開発」です。

Bossが日本人ということもあり、laboのメンバーの約半分が日本人でした。ただし、Bossからの「labo内日本語禁止令」が発令されていたので、日本人同士でも会話は英語です。英国人は非常に親切で「紳士・淑女の国」という前評判どおりでした。また「日本人は本当によく働くね」と言われたり、そのお国柄というものを実感しました。

この3年間で研究活動以外にも多くの貴重な経験を家族と共にし、有意義な留学となりました。このような機会を与えていただいた小児医学研究振興財団・イーライリリーに改めて感謝いたします。有難うございました。



labo内メンバー。前列左がProf. Ken Suzuki。

公益財団法人 小児医学研究振興財団 評議員会会長就任に当たって

—小児医学研究のさらなる発展のために—



杏林大学医学部 客員教授
別所 文雄

平成23年6月22日の評議員会において、評議員会長にご推挙いただきましたが、新法人法の下における公益財団法人においては、評議員会の役割は大変重要なものになっており、その会長として身の引き締まる思いであります。

さて、当財団の目的は小児の保健と福祉に寄与することですが、その名称が示すように、わが国の小児医学研究を振興することによってその目的を達成することを目指しています。そのための事業の柱は、研究費の助成と、優れた研究成果に対する賞の授与です。研究費の助成の決定は選考委員会による公平厳正な検討結果に基づいて行われておりますが、これまでの3回の被助成研究を一瞥しま

すと、7つある助成対象研究課題の内の2つの課題に集中(8割弱)しており、1件も助成されていない課題が3課題あります。研究は自由な発想で行うべきものですし、またある時期に集中してなされるべき課題もあることは確かですが、対象課題は、当財団の目的達成のために必要であるからこそ明示されているわけですので、採用決定に当たってはその点の考慮も必要であろうと思われます。その方法については、まだ始まったばかりの事業ですので、試行錯誤の中で十分な検討を行っていかねばならないと思います。しかし、対象課題に該当する応募がなければどうにもなりません。是非広い視野に立って、小児の保健と福祉に寄与することを目的とした研究を進めていただきたいと思います。

公益財団法人 小児医学研究振興財団 役員(理事・監事) / 評議員名簿

～平成23年10月1日現在～

【役員】

- 理事長** 鴨下 重彦 国立国際医療センター名誉総長
- 常務理事** 松尾 宣武 国立成育医療センター名誉総長
- 常務理事** 柳澤 正義 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
日本子ども家庭総合研究所所長
- 理事** 衛藤 義勝 東京慈恵会医科大学遺伝病研究講座教授
- 理事** 加藤 達夫 国立成育医療研究センター理事長・総長
- 理事** 木村 政之 日本製薬団体連合会理事長
- 理事** 坂田 和信 日本保育園保健協議会事務局長
- 理事** 清野 佳紀 大阪厚生年金病院名誉院長
大阪保健医療大学学長
- 理事** 前川 喜平 東京慈恵会医科大学名誉教授
- 監事** 濱本 英輔 元国税庁長官
- 監事** 角田 茂 元会計検査院官房審議官

【評議員】

- 会長** 別所 文雄 杏林大学医学部 客員教授
- 有賀 正 北海道大学大学院医学研究科 小児科学教授
- 五十嵐 隆 東京大学大学院医学系研究科 小児科学教授
- 河野 陽一 千葉大学医学部 小児科学教授
- 高橋 孝雄 慶應義塾大学医学部 小児科学教授
- 千田 勝一 岩手医科大学 小児科学教授
- 原 寿郎 九州大学大学院医学研究院 小児科学教授
- 松井 陽 国立成育医療研究センター 院長(小児科)
- 桃井真里子 自治医科大学 医学部長(小児科)

【事務局】

- 事務局長** 村松 宣孝
- 事務局次長** 老田 礼子

